

MIYAGI UNIVERSITY

GRADUATE SCHOOL OF PROJECT DESIGN

令和4年度入学

宮城大学大学院

事業構想学研究科（博士後期課程）

第1期募集

学 生 募 集 要 項



宮 城 大 学

目 次

宮城大学大学院及び事業構想学研究科アドミッション・ポリシー	1
1 募集人員	2
1－2 入学者選抜試験日程	2
2 出願資格	2
2－2 入学資格審査	3
3 出願手続	4
4 選抜方法等	6
5 合格発表	7
6 入学手続	7
7 初年度納付金（令和3年度入学者実績）	8
8 その他	8
研究計画書記載例	10
令和4年度事業構想学研究科（博士後期課程）概要（予定）	11
入学者選抜手数料支払方法のご案内	22
試験会場案内	23

【求める人材像】

宮城大学大学院は、本学の理念や各研究科の人材養成目標を理解し、意欲を持って主体的に学修に取り組み、高度専門職業人又は研究者として積極的に地域社会に貢献しようとする意志と、そのための基礎となる広い視野と必要な学力を備えた学生を求めています。なお、各研究科のアドミSSION・ポリシーも併せて参照してください。

【入学者選抜方針】

専門科目、外国語（英語）、小論文、面接、口述試験、提出書類などによって、必要な学力、意欲、適性を評価します。なお、各研究科のアドミSSION・ポリシーも併せて参照してください。

事業構想学研究科アドミSSION・ポリシー

【求める学生像】

事業構想学研究科博士前期課程では、事業構想に関する知識やスキルの高度化に強い意欲を持つ人を受け入れます。

事業構想学研究科博士後期課程では、事業構想に関する専門的な知識又は高度な経験を有し、自らの専門領域の研究に強い意欲を持つ人を受け入れます。

【入学者選抜方針】

事業構想学研究科博士前期課程では、以下の入試方法により学力、意欲及び適性を評価します。

- (1) 一般選抜試験では、専門科目、英語、面接、研究計画書等出願書類の内容により、学力、意欲、適性を評価します。また、社会人特別選抜試験、外国人特別選抜試験では、これらのうち、英語を除いた科目等により、評価を行います。
- (2) 専門科目では、専門領域に関する知識や論理的思考能力、表現力などを総合的に評価します。
- (3) 面接では、自らの専門領域のみならず関連領域に対する関心、勉学や研究に対する意欲、コミュニケーション能力などを評価します。

事業構想学研究科博士後期課程では、以下の入試方法により学力、意欲及び適性を評価します。

- (1) 選抜は、専門科目、口述試験（面接を含む）及び研究計画書等出願書類の内容を総合的に評価します。
- (2) 専門科目試験では、入学後の研究内容に関連する知識及び論文執筆能力について評価します。
- (3) 口述試験では、これまでの研究内容、実務経験及び入学後の研究計画等について問うことで、研究遂行能力、意欲、コミュニケーション能力などを評価します。

令和4年度入学 宮城大学大学院 事業構想学研究科(博士後期課程) 第1期募集 募集要項

事業構想学研究科(博士後期課程)の学生を次のとおり募集します。

1 募集人員

研究科名	専攻名	課程名	募集人員
事業構想学研究科	事業構想学専攻	博士後期課程	3人

領域(授業科目の系統)	領域の主な内容
産業・事業システム領域 (事業計画系) (デザイン情報系)	新たな産業・事業を創造し開発してゆくプロジェクトマネジメントの考え方や、手法、調査研究、企画開発にかかわる高度な能力を身につけるため、商業、観光事業における経営、ビジネス法、情報システム、施設構築などにおける課題を把握し、事業成長やその仕組みについて提案・構想できる能力を養成する。
地域・社会システム領域 (事業計画系) (デザイン情報系)	地域事業・社会事業における新たな仕組みを構想し、地域の総合的な計画、農業ビジネスや医療事業にかかわる課題について経営戦略や情報システム、地域デザインなど融合した観点での事業構想や提案のできるプロジェクトマネージャーを養成する。

注意事項

出願を希望する方は、上記の領域から専攻を志望する領域と授業科目の系統を一つ選びます。領域の内容、授業科目内容については、11ページ以降に記載してありますので、志望領域の教員に、今後の教育・研究の進め方・内容について事前に電子メール等で相談してください。連絡先は21ページを参照してください。

1-2 入学者選抜試験日程

令和3年9月13日(月)

2 出願資格

次の(1)～(7)の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者又は令和4年3月までに授与される見込みの者
- (2) 外国において、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は令和4年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は令和4年3月までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は令和4年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は令和4年3月までに授与される見込みの者
- (6) 文部科学大臣が指定した者(平成元年文部省告示第118号)
 - ① 大学を卒業し、大学、研究機関等において、2年以上の研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - ② 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究機関等において、2年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

(7) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者又は令和4年3月までに24歳に達する者

※ 出願資格(6)又は(7)により出願しようとする者は、入学資格審査が必要となりますので、**2-2「入学資格審査」**の規定により、審査を申請してください。

2-2 入学資格審査

2「出願資格」(6)又は(7)により出願しようとする者については、出願前に入学資格審査を行いますので、あらかじめ宮城大学アドミッションセンターへお問い合わせの上、下記期日までに本研究科が指定する書類を提出してください。

なお、入学資格審査により入学資格を認定されない場合の出願は受付できませんので、あらかじめ承知願います。

(1) 資格審査申請期限

令和3年7月2日(金)【消印有効】

持参の場合の受付時間は、午前9時から正午まで及び午後1時から午後5時まで

(ただし、土曜日、日曜日及び国民の祝日を除きます。)

(2) 申請方法

申請は、下記(4)の申請書類一式を角形2号の封筒に入れ、「事業構想学研究科入学資格審査申請」と朱書きし、簡易書留速達による郵送又は持参により行ってください。('4)①チ」に関する論文・作品・業績・成果物について、封筒への封入ができない場合は、別途提出してください。その際は、申請書類一式の中に別途提出物がある旨を記載したメモを入れてください。)

書類又は記載事項の不備又は不足があった場合は、別に指定する期日までに補正されたものに限り受付します。

(3) 申請先 〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1 (大和キャンパス)
宮城大学アドミッションセンター
電話 022-377-8359

(4) 申請書類

※資格審査の際は、宮城大学ウェブサイトより、該当する様式をすべて印刷の上、記入してください。

① 出願資格(6)による出願者

イ 資格審査申請書 (**S-1票。(A4 片面印刷)**) 必要事項すべてを記入し、該当項目に○印を付してください。)

ロ 履歴書 (**S-2票。(A4 両面印刷)**) 学歴、職歴及び研究歴等を記入してください。)

ハ 業績レポート (**S-3票。(A4 両面印刷)**) 職業活動における経歴及び業績を記入してください。)

ニ 成績証明書 (出身大学の長が作成し、厳封したもの。)

ホ 学籍等に関する証明書 (大学等の卒業・修了(見込)証明書及び在籍期間証明書(在学中又は中退の場合に限ります。))を各学校の様式で提出してください。)

ヘ 職歴を証する書類(業績等について内容を記載した書類(様式任意))を添付してください。)

ト 在職中の研修歴及び研修内容・時間を証する書類

チ その他個別判断に該当する基準に係るものとして、各種資格取得証明書、論文・作品・業績や成果物等(現物の提出が不可能な場合は、写真等により内容を把握できるもの)及び当該内容が申請者自らのものであることを証明する書類(内容によっては疎明書類、例えば各種媒体での紹介記事等をもって証明する書類に準じる扱いをすることもあります。))を提出してください。

リ 戸籍抄本(各種証明書類の氏名と、現在の氏名が異なる場合に限り、提出してください。)

ヌ 審査結果通知用切手374円分('チ)に係る論文・作品・業績・成果物について、返却を希望する場合は、別途所要の切手を貼付した封筒又は必要事項を記入した宅配便等の着払い伝票を同封してください。)

- ② 出願資格（７）による出願者
出願資格（７）によって出願しようとする者の申請書類については、あらかじめ宮城大学アドミッションセンターへ照会してください。

(5) 申請上の注意事項

- ① 申請書類がすべてそろっていない場合は、受付できませんので、申請の際は十分に確認してください。
※ 書類に不備、不足がある場合については、期限を定めて提出書類の補正又は書類の追加提出を指示しますが、期限内に補正又は追加提出がなかった場合は、受付できません。
- ② 申請後の記載事項の変更については、すみやかに連絡してください。
- ③ 受付した申請書類は、原則として返還しません。
- ④ 申請書類のうち、外国語で記載された証明書等については、必ず日本語訳を添付してください。

(6) 認定結果通知

- ① 審査結果については、申請者本人あて郵送により通知します。また、認定者については、宮城大学大学院入学資格認定通知書を送付しますので、出願の際に添付してください。
- ② 審査結果が、令和3年7月23日（金）までに通知されていない場合は宮城大学アドミッションセンターまで連絡してください。
- ③ 資格認定した後であっても、申請書類の記載事項と相違する事実が発見された場合は、認定を取消すことがあります。

3 出願手続

(1) 出願期間

令和3年8月2日(月)から令和3年8月9日(月・振替休日)まで【消印有効】

(2) 出願方法

- ① 出願は、所定の出願様式を使用し、簡易書留速達による郵送又は持参により行ってください。
- ② 簡易書留速達による郵送の場合は、出願期間最終日の消印有効とします。
- ③ 直接持参による受付時間は、午前9時から正午まで及び午後1時から午後5時までとします。ただし、土曜日、日曜日、国民の祝日及び振替休日の受付は行いません。

(3) 出願先（大和キャンパス）

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
宮城大学アドミッションセンター
電話 022-377-8359

(4) 入学者選抜手数料

入学者選抜手数料 30,000 円 を期間内（**令和3年8月2日（月）～令和3年8月9日（月・振替休日）**）に、最寄りの金融機関窓口（本学所定の様式「**A-2 票**」を使用。ただし、ゆうちょ銀行・郵便局を除く。）、又はコンビニエンスストアで納入してください。どちらで納入する場合も振込（払込）手数料が別途かかります。

※コンビニエンスストアでの手続きの詳細については22ページ参照

(5) 出願書類

※出願の際は、宮城大学ウェブサイトより、A～E票をすべて印刷の上、記入してください。

出願書類等	注意事項
願書（ A-1 票 ） （ A4 両面印刷 ）	必要事項すべてを記入し、該当項目に○印を付してください。 また、 A-2 票 で入学者選抜手数料として振り込んだ30,000円の「振込証明書（大学提出用）」部分を切り取ったものを、裏面の所定の欄に貼り付けてください。

出願書類等	注意事項
選拔手数料振込依頼書のうち振込証明書 (大学提出用) (A-2票) (A4 片面印刷) または 収納証明書 (収納証明書の場合は、番号はついています。)	【入学者選拔手数料を所定の振込依頼書で払い込む場合】 入学者選拔手数料として 30,000 円を本学所定の振込依頼書 (A-2票) で、振込期間内に金融機関から電信扱いで振り込んでください。(ただし、ゆうちょ銀行・郵便局を除く。) 振り込み後、「振込証明書 (大学提出用)」を切り取ったものを出願書類として A-1票 裏面の所定の欄に貼り付けてください。 【入学者選拔手数料をコンビニエンスストアで払い込む場合】 コンビニエンスストアで発行された「取扱明細書 (兼領収書)」の「収納証明書」部分を切り取ったものを、出願書類として A-1票 裏面の所定の欄に貼り付けてください。
受験票 (B-1票)、 写真票 (B-2票) (A4 片面印刷)	必要事項すべてを記入し、該当項目に○印を付すとともに、出願前3か月以内に撮影した、正面上半身、無帽、無背景の写真【縦4cm×横3cm】を貼付してください。※受験票、写真票に貼付する写真は、 <u>同一の写真</u> を使用し、裏面に氏名を記載してください。なお、 B-1票とB-2票 は切り離さないでください。
住所票 (C票) (A4 片面印刷)	必要事項すべてを記入してください。
出願用封筒貼付用紙 (D票) (A4 片面印刷)	任意の角形2号の封筒 (A4判の資料が入る大きさ) に、 D票 「出願用封筒貼付用紙」を印刷したものを貼り、必要事項すべてを記入し、封筒に出願書類一式を入れ、出願してください。
郵便切手	374円分 の郵便切手を、出願書類とともに提出してください。受験票送付時に使用します。
業績レポート (E票) (A4 両面印刷)	これまでの研究業績 (論文タイトル、発表年月、掲載誌名、単著・共著の区別、査読の有無、口頭発表の有無など) を記載してください。その他に、企業、官公庁、教育機関、研究機関及びその他各種団体等の在職経験又は活動経験を有する者は提出してください。
出願資格を有することを証する書類 (いずれかひとつ)	在籍する大学院等の修了見込証明書、出身大学院等の修了証明書または本学大学院入学資格認定通知書等を提出してください。
成績証明書	出身大学院等の様式で提出してください。
研究計画書 【記載例 10 ページ】	入学後の研究計画に関し、研究目的、研究動機・問題の背景及び研究方法等について記載してください。作成にあたっては、A4判の用紙2枚を用い、ワードプロセッサにより作成してください。 使用する文字の大きさは10ポイント以上とし、本文4,000字以内で作成してください。また、1枚目に研究テーマ、志望する専門領域【2ページ参照】、氏名を記入してください。 <u>※研究計画書は、願書受付後の補正はできません。指定書式を充分に確認してください。なお、本学ウェブサイト (https://www.myu.ac.jp/) からテンプレートをダウンロードできます。</u>
修士論文等の要旨 又は研究の要旨	修士の学位を有する者は、修士論文の要旨又は研究成果の要旨を提出してください。修士の学位を授与される見込みの者は、現在研究している研究の要旨を提出してください。 作成にあたっては、A4判の用紙1枚を用い、ワードプロセッサにより作成してください。使用する文字の大きさは10ポイント以上とし、本文2,000字以内 (1行あたり40字、全体で50行以内) で作成してください。
戸籍抄本	各種証明書類の氏名と現在の氏名が異なる場合に限り、提出してください。
住民票、旅券、 査証	日本国籍を有しない者で、出願時点で、既に在留カードが交付されている方 (または、外国人登録証明書をお持ちの方) は、市町村が発行する住民票を提出してください。あわせて、旅券と査証のコピーを提出してください。

(6) 出願上の注意事項

- ① 出願書類がすべてそろっていない場合は、受理できませんので、出願の際は、十分に確認してください。
- ② 出願後に氏名、住所、電話番号に変更があった場合は、すみやかに宮城大学アドミッションセンターまで連絡してください。
- ③ 入学を許可した後であっても、出願書類の記載事項と相違する事実が発見された場合は、入学許可を取消すことがあります。
- ④ 受付した出願書類及び入学者選抜手数料は、返還しません。
- ⑤ **出願書類のうち、外国語で記載された証明書等については、必ず日本語訳を添付してください。**

(7) 受験票の送付

受験票は、願書受付後、令和3年8月20日（金）頃に発送する予定ですが、令和3年8月25日（水）までに受験票が届かない時には、宮城大学アドミッションセンターに連絡してください。

(8) 特別の配慮を要する入学志願者の事前相談

本学大学院への入学を志願する方で、障害を有する等、受験上又は修学上、特別な配慮を希望する場合は、令和3年7月21日（水）までに、その内容を宮城大学アドミッションセンターに相談してください。

〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1 宮城大学アドミッションセンター
電話 022-377-8359

4 選抜方法等

(1) 選抜方法

論述試験、口述試験（面接を兼ねる。）及び研究計画書等出願書類の内容を総合的に判定して行います。

(2) 試験日 **令和3年9月13日（月）**

(3) 試験会場 宮城大学大和キャンパス 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

(4) 試験時間等

試験科目		試験時間	配点
口述試験	これまでの研究内容（修士論文の内容）及び入学後の研究計画等について行います。	各30分程度	100点
論述試験	入学後の研究に関連するテーマについて行います。	90分	100点

※ 受験者数により、口述試験及び論述試験の試験開始時間（入室時間）が変更となる場合があります。

(5) 受験上の注意

- ① 受験者は、受験票送付の際に指定される時間までに、指定の試験室に入室し、着席してください。
- ② 口述試験（面接を兼ねる。）開始時に不在の場合は、欠席者として取扱います。
- ③ 口述試験（面接を兼ねる。）の際に自身の作品や成果物等を持ち込むことができます。
- ④ 試験日当日は、受験票を必ず持参してください。試験当日に受験票を忘れた場合は、仮受験票を発行しますので、受付に申し出てください。また、受験票は入学手続の際にも必要となりますので、試験後も大切に保管してください。
- ⑤ 口述試験は、受験者本人の了承を得て録音することがあります。録音した内容は、より公正な試験を維持するためにのみ、本学内で使用します。
- ⑥ 事前に試験会場の下見はできますが、試験室内への立入りはできません。
- ⑦ その他連絡事項が生じた場合は、受験票送付の際に通知します。

5 合格発表

(1) 発表期日 令和3年9月24日(金) 午後1時頃

(2) 発表方法

- ① 合格者に対して合格通知書を送付します。
- ② 宮城大学のウェブサイトにも合格者受験番号を掲示します。
ウェブサイトアドレスは、 <https://www.myu.ac.jp/> です。
※その他の方法による合格者に関する問合せには、一切応じません。

6 入学手続

(1) 入学手続期間 令和3年9月27日(月) から令和3年10月5日(火) まで《午後5時必着》

(2) 提出書類等

- ① 誓約書兼保証書(様式は、合格通知の際送付します。)
- ② 受験票(手続終了後、返却します。)
- ③ 振込証明書(入学金を納入後、渡される領収書のうち、大学提出用)
- ④ 写真1枚
入学手続前3か月以内に撮影したもので、縦3.0cm×横2.5cm、正面上半身、無帽、無背景のものを1枚提出してください。(学生証及び学生名簿に使用します。)
- ⑤ 住民票等(合格発表日以降に発行された原本を提出願います。)
7「初年度納付金」(1) 入学金 a「宮城県内の方」で、アに該当する場合は、合格者本人の住民票等(住民票又は戸籍の附票の写し等)を提出してください。イに該当する場合は、(i) 合格者の配偶者又は1親等の直系尊属の方の住民票等及び(ii) 合格者本人との関係を証明する書類(戸籍謄本・抄本や戸籍記載事項証明書等)の2点を提出してください。
- ⑥ 修了証明書
2「出願資格」が、出願時点で「見込み」となっている方のみ、合格通知の際に別に指定する期日までに卒業証明書又は修了証明書を提出してください。

(3) 入学手続

- (2)の提出書類等について、簡易書留速達による郵送又は持参により提出してください。
- ① 入学手続に必要な書類(誓約書兼保証書、入学金振込依頼書)は、合格発表後、本人あてに郵送します。
 - ② 郵送により提出する場合は、必ず「簡易書留速達」により送付してください。入学手続期間最終日必着とします。入学手続期間を過ぎて到着したものは、受理しません。
 - ③ 直接持参の場合の受付時間は、午前9時から正午まで及び午後1時から午後5時までとします。土曜日及び日曜日の受付は行いません。
 - ④ 必要な書類がすべてそろっていない場合には、受理できませんので、書類提出の際には十分に確認してください。
 - ⑤ 一度受付をした書類及び入学金等は、返還しません(過誤納の場合は除きます。)
 - ⑥ 入学を許可され、入学手続を完了した者であっても、令和4年3月末日までに大学院等を修了できない場合は、入学許可を取り消します。
 - ⑦ 令和4年3月末日までに入学を辞退する場合は、入学手続完了前後を問わず入学辞退届(任意様式: 研究科名、受験番号、住所、氏名、入学を辞退する旨を記載し、押印のこと。)を提出してください。
 - ⑧ 令和4年4月1日以降の入学辞退はできません。4月1日以降は授業料が発生していますので、当該授業料を納入した後の退学となります。

(4) 入学手続書類提出先 〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1 (大和キャンパス)
宮城大学アドミッションセンター 電話 022-377-8359

7 初年度納付金（令和3年度入学者実績）

（1）入学金

合格者に対し、別途送付する入学金振込依頼書により、最寄りの金融機関で次の金額を納めてください。

a. 宮城県内の方 282,000円

宮城県内の方とは、次のいずれかに該当する方をいいます。

ア 入学許可の日（令和3年9月24日）前1年間引き続き宮城県内に住所を有する（住民登録されている）方

イ 入学許可の日（令和3年9月24日）前1年間引き続き宮城県内に配偶者又は1親等の直系尊属が住所を有する（住民登録されている）方

b. 宮城県外の方 564,000円

（2）授業料 年 額 535,800円

納入時期 入学初年度は5月（2年目以降は4月）と10月の2回に分けて納入

（3）その他納付金

学生傷害保険等実費が必要となりますが、詳細については入学手続後追ってお知らせします。

8 その他

（1）研究にあたって必要な準備物等については、入学後に指導担当教員が指示します。

（2）奨学金（令和3年度入学者実績）

日本学生支援機構が行う奨学金の申込みは、入学後において、宮城大学大学院で行うことができます。

日本学生支援機構が貸与する奨学金には、第一種奨学金（無利子貸与）、第二種奨学金（有利子貸与）があり、その貸与月額第一種奨学金の場合 80,000 円又は 122,000 円、第二種奨学金の場合 50,000 円～150,000 円の選択制になっています。第二種奨学金の貸与を受けた者は、その貸与額に対し年 3.0%（上限）の利息がかかります。

（3）授業料の減免等

家庭の経済状況又は災害等のため、授業料の納付が著しく困難な学生で、学業成績等所定の基準を満たす者に対しては、授業料の減免又は徴収期限の変更等の制度があります。

（4）住居

本学が設置する学生寮はありませんが、アパート等に関して、宮城大学生協において情報を提供します。

（5）口頭による開示請求に基づく試験成績の開示の実施

宮城県個人情報保護条例に基づき、受験者は、大学院入学者選抜試験の成績を口頭により開示請求することができます。

① 開示内容 科目別得点及び総合得点並びに総合得点による順位

② 受付期間 令和3年9月24日（金）から令和3年10月25日（月）まで
ただし、土曜日、日曜日、国民の祝日及び10月15日（金）を除きます。
（9月24日（金）は午後1時から午後5時まで）

③ 受付時間 午前9時から正午まで及び午後1時から午後5時まで

④ 開示場所 宮城大学事務局（大和キャンパス）

⑤ 必要書類 受験票を持参してください。

⑥ その他 電話・電子メール等の通信による問合せには一切応じません。
また、受験者本人以外の方からの請求は、受付できません。

（6）入学者選抜試験成績等の個人情報について

本学の入学者選抜試験実施に伴い、本学が保有した試験成績等の個人情報は、入学者選抜のほか教育的な目的のため、本学内でのみ使用することがあります。

(7) 長期履修制度について

職業を有している等の事情により、博士後期課程3年の標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを希望する場合は、所定の申請を行うことにより、長期履修学生として許可される制度があります。また、手続機会は原則として入学時のみとし、許可された場合でも5年を超えて在学することはできません。

なお、基本的には、通常のカリキュラム・授業時間割を使用し、教育・研究指導が行われます。

志望する専門領域 ○○○○領域 氏名(10pt MS明朝)

1 枚目のみ記入

見出しは 10pt MSゴシック

本文は 10pt 明朝

左マージンは 20 mm

文字数は 4,000 字以内(図表等を含む)、
文字の大きさは 10 ポイント以上とし、①研究目的、②研究動機・問題の背景、③研究方法等について記載してください。

右マージンは 20 mm

A 10x10 grid of circles. The first 9 rows are complete, each containing 10 circles. The 10th row contains only the first 4 circles, with the last 6 positions empty.

A handwriting practice grid consisting of three rows and twenty columns of empty circles. The circles are arranged in a regular grid pattern, intended for students to practice writing their names or other text within the spaces.

表	图
表 1	图 1
表 2	图 2
表 3	图 3
表 4	图 4
表 5	图 5
表 6	图 6
表 7	图 7
表 8	图 8
表 9	图 9
表 10	图 10
表 11	图 11
表 12	图 12
表 13	图 13
表 14	图 14
表 15	图 15
表 16	图 16
表 17	图 17
表 18	图 18
表 19	图 19
表 20	图 20
表 21	图 21
表 22	图 22
表 23	图 23
表 24	图 24
表 25	图 25
表 26	图 26
表 27	图 27
表 28	图 28
表 29	图 29
表 30	图 30
表 31	图 31
表 32	图 32
表 33	图 33
表 34	图 34
表 35	图 35
表 36	图 36
表 37	图 37
表 38	图 38
表 39	图 39
表 40	图 40
表 41	图 41
表 42	图 42
表 43	图 43
表 44	图 44
表 45	图 45
表 46	图 46
表 47	图 47
表 48	图 48
表 49	图 49
表 50	图 50
表 51	图 51
表 52	图 52
表 53	图 53
表 54	图 54
表 55	图 55
表 56	图 56
表 57	图 57
表 58	图 58
表 59	图 59
表 60	图 60
表 61	图 61
表 62	图 62
表 63	图 63
表 64	图 64
表 65	图 65
表 66	图 66
表 67	图 67
表 68	图 68
表 69	图 69
表 70	图 70
表 71	图 71
表 72	图 72
表 73	图 73
表 74	图 74
表 75	图 75
表 76	图 76
表 77	图 77
表 78	图 78
表 79	图 79
表 80	图 80
表 81	图 81
表 82	图 82
表 83	图 83
表 84	图 84
表 85	图 85
表 86	图 86
表 87	图 87
表 88	图 88
表 89	图 89
表 90	图 90
表 91	图 91
表 92	图 92
表 93	图 93
表 94	图 94
表 95	图 95
表 96	图 96
表 97	图 97
表 98	图 98
表 99	图 99
表 100	图 100

(なくても可)

図 タイトル

令和4年度事業構想学研究科（博士後期課程）概要（予定）

研究科の理念・目的・教育目標

宮城大学は、「ホスピタリティ精神（他人に対する温かい思いやり）とアメニティ感覚（快適な空間や快い生活環境）」という理念、そして「高度な実学の成果を通しての地域社会への貢献」という目的を掲げている。つまり、宮城大学の理念と目的は、高度な実学の成果を通してホスピタリティとアメニティの行き届いた地域社会の実現に貢献することである。

また、大学院事業構想学研究科（博士後期課程）は、上記の理念と目的を踏まえ、高度情報化社会、グローバル社会における新しい産業創造・事業創造の役割を担い、国内外の企業・行政・地域社会などのあらゆる場面における先端的諸問題の発見・解決が出来る独創的な研究能力と事業能力を有する高度専門的な職業人（プロジェクトマネージャー）の養成を教育目標とする。同時に確立過程にある事業構想学をより体系化しその教育に携わることのできる研究者の養成を教育目標とする。

このため、主に民間部門及び公共部門を対象とする「産業・事業システム領域」と「地域・社会システム領域」の2領域によって教育課程を編成するとともに、事業計画系の専門家と技術系の専門家による研究指導を行い、いずれの領域においても高度専門的な職業人（プロジェクトマネージャー）の養成を教育目標とする。

高度専門的な職業人（プロジェクトマネージャー）の目的は、修了生が産業分野の各種ビジネスプロジェクトの最前線でのプロデューサーとして、あるいは地域コミュニティの再生・活性化を含む広義のサービス産業を中心とした公的分野・非営利分野の各種プロジェクトのリーダーとして活躍し、東北地方の産業振興をはじめとする地域振興に寄与することである。

◆ 領域の研究内容 ◆

産業・事業システム領域

今日の産業・事業という営利系の経営・技術環境は、国際性、地域性という両極端のニーズと、成功の不確実性を乗り越えるべき社会的状況にある。

よって、わが国の実業界が求める専門的ニーズは、あらたな産業・事業を創造し開発してゆくプロジェクトマネジメントの考え方や手法や、調査研究のみならず企画開発にかかわる高度な能力が求められている。

本領域においては、産業・事業を創造し開発してゆく考え方を探求し、新しい産業・事業創造の方向性やその技術基盤などを研究指導する。研究指導のアプローチの視点として、事業開発、デザイン並びに情報システムを有する。

本領域においては、産業・事業の領域を主に商業・観光系に絞り、社会環境と関連を強くもった事業発展の法則に関して指導する。指導は、基本的には、経営・経済的側面や、ビジネス法的方法のアプローチをするが、同時に、分散データベースやマルチメディア情報システム、データ組織化技術、インターネット応用技術等の情報システムの側面や施設設備、空間構成など建築計画学等の知見を加え、分析ツールや統合ツールを多様に準備して指導を行う。

情報システム視点での研究指導では、産業・事業情報システムへの適用が重要となるマルチメディア情報システムの構成的な実現法について、データ組織化技術、インターネット応用技術などから研究指導を行う。

地域・社会システム領域

今日の地域・社会という非営利系の経営・技術環境は、時代の変化が著しく、地域経済の活性化、雇用機会の創出、医療・福祉システムの再構築など、問題解決の急がれる事柄が目白押しの状況と言える。

よって、わが国の公的部門や地域社会が求める専門的ニーズは、部門の民営化や、これまでになかった新たな事業の創造などであり、これからの時代に対応する、持続可能な社会を形成するための高度な専門知識や事業化能力、企画開発にかかわる能力が求められている。

本領域においては、地域・社会の自立に関する多彩な内容を、知識創造の観点から探求し、新しい地域・社会創造の方向性、新たな経済社会システムやその技術基盤などを研究指導する。研究指導のアプローチの視点として、地域・社会構想並びに情報システムを有する。

地域・社会構想視点での研究指導については、地域経済、コミュニティビジネス、農業ビジネス、地域交流、まちづくり、非営利経営システム、医療・福祉経済といった地域で生起する多様な分野を学問の対象として考えている。こうした分野での、新たな事業の開発や創造について指導研究を行うが、その際に、地域・社会情報システムへの適用や空間・地域計画といった領域を体系的に取り入れた研究指導を行う。

情報システム視点での研究指導については、地域・社会情報システムへの適用が重要となる情報・空間・人間という3者を有機的に結合した新しい社会基盤からの情報システムのあり方を研究指導する。

《授業科目の概要》

※令和3年4月1日現在のものです。（今後変更の可能性あります。）

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
産業・事業システム	産業・事業システム 特別演習Ⅰa・Ⅰb (事業計画系) 【科目の一般概要】 産業・事業システム 特別演習Ⅰa・Ⅰb(事業 計画系)(以下「特 別演習Ⅰa・Ⅰb」とい う。)は、博士(後期3 年の課程)の中心となる 事業構想学特別研究を 補助する目的で開設す る。関連論文の輪読、 先行研究のサーベイ、 現実問題の理解と解決 方法の実践・理解など により、専門的知識を 一層高めるとともに、 研究の方法等を深め る。先行研究に基づい た研究プロトコルを提 出することを本科目の 最終課題とする。 また、特別演習Ⅰa・Ⅰ bを行うに当たって、有 益であると認められる 場合は、指導教員の指 導の下に、企業等他の 研究機関・施設とコラ ボレーションしつつ (企業インターンシッ プを含む。)指導す る。特別演習Ⅰa・Ⅰb は、事業計画系の学問 分野を専門とする教員 による演習指導科目で あり、事業計画の視点 から事業構想学を捉え る。	【人材・組織マネジメント特別演習】 本演習では、「組織における人間」の存在 について、①構成主体、②行動主体、③意思 決定主体、④成果規定主体、これら4側面に 基づいて分析し考察する。学術研究を機能的 に推進するため、①基本的視座の設定、②フ レーム・ワークの構築、③研究仮説の設定、 ④仮説モデルの設計、⑤分析方法の選択、の 「能力」を喚起し育成する。分析方法として 「定量的分析(多変量解析)」と、「定性的分 析(ヒアリング調査・参与観察調査など)」と を習得する。併せて、人事制度(評価・報 酬・育成)、組織ストレス、組織風土、組織 文化などの組織環境にも言及し、持続的な競 争優位の源泉である人間を有効に育成するた めのCDP施策を設計し、提示できる能力の涵 養を図る。	教授 櫻木晃裕

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
産業・事業システム	産業・事業システム 特別演習Ⅰa・Ⅰb (事業計画系) 【科目の一般概要】 産業・事業システム 特別演習Ⅰa・Ⅰb(事業計画系)(以下「特別演習Ⅰa・Ⅰb」という。)は、博士(後期3年の課程)の中心となる事業構想学特別研究を補助する目的で開設する。関連論文の輪読、先行研究のサーベイ、現実問題の理解と解決方法の実践・理解などにより、専門的知識を一層高めるとともに、研究の方法等を深める。先行研究に基づいた研究プロトコルを提出することを本科目の最終課題とする。 また、特別演習Ⅰa・Ⅰbを行うに当たって、有益であると認められる場合は、指導教員の指導の下に、企業等他の研究機関・施設とコラボレーションしつつ(企業インターンシップを含む。)指導する。特別演習Ⅰa・Ⅰbは、事業計画系の学問分野を専門とする教員による演習指導科目であり、事業計画の視点から事業構想学を捉える。	【非営利組織マネジメント特別演習】 非営利組織マネジメントに関わる論点(ファンドレイジング、ガバナンス、ボランティアマネジメント、マーケティング、アドボカシー、サービス供給、ほか)をもとに、体系的に先行研究を整理するところから始める。その上で、自身の研究テーマの学術的な位置付けおよび意義を明確にする。先行研究における質的調査、ケーススタディ、動向の量的把握、理論検証のための実証分析を精査し、自身の研究テーマに即した手法を用いて、分析を行う。分析結果を踏まえて非営利組織の行動特性に関する考察を展開するとともに、政策的インプリケーションを議論する。	准教授 石田 祐
		【産業経済学特別演習】 本演習科目では、営利・非営利を問わずプロジェクト運営に必要な費用最小化、利潤最大化の概念を基礎として、ミクロ経済学の観点から企業行動について理論的に考察する。企業数や参入障壁の相違により市場構造を分類しながら、寡占市場での競合企業の行動に対する最適な戦略を分析する。また、地域活性化に必要な協調的行動についても検討しながら、企業行動が均衡価格や経済厚生に与える影響を解明していく。受講生の関心に即したテキスト及び専門論文を輪読する形式で、オーソドックスな理論と最新の研究内容の双方を理解し、先行研究において示された帰結や残された課題を精査する。	教授 金子浩一

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
産業・事業システム	産業・事業システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb (デザイン情報系) 【科目の一般概要】 産業・事業システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb(デ ザイン情報系)は、特 別演習Ⅰa・Ⅰbと履修 の目的、目標及び指導 方法等は同じである が、デザイン情報系の 学問分野を専門とする 教員による演習指導科 目であり、情報の視点 から事業構想学を捉え る点に違いがある。	【建築プログラミング特別演習】 事業を推進する場として必要不可欠な施 設、空間について、建築プロセスの初期の段 階にあって、事業そのものの成否に大きく影 響を及ぼす建築企画・設計段階での計画条件 設定プロセス(建築プログラミング)に関す る研究を推進するための基礎的な知識や実務 の実情などを理解することを目的とする。具 体的には、学術論文の収集と講読、実務にお けるプログラミング事例の調査・分析、大学 施設などの既存施設事例を対象として行う実 情把握・問題点分析・計画条件設定といった 一連のプログラミング・プロセスに関わる演 習などを通して、学問体系、理論や手法を学 ぶ。	教授 井上 誠
		【情報システム設計特別演習】 情報システムを、企画、設計、構築、試 験、及び文書化するための高度な技法を演習 により修得する。具体的には次を学ぶ。 (1) 形式手法を用いることにより、各過程 を通した整合性を担保する。(2) アジャイル なプログラム管理を行う。(3) マルチ エージェントによりシステムをモデル化し実 装する。(4) クラウド化したインフラストラ クチャーを活用する。(5) メタプログラ ミング及びアスペクト指向を含む高度なプロ gramming技術を活用する。	教授 須栗裕樹

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
産業・事業システム	産業・事業システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb (デザイン情報系) 【科目の一般概要】 産業・事業システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb (デ ザイン情報系) は、特 別演習Ⅰa・Ⅰbと履修 の目的、目標及び指導 方法等は同じである が、デザイン情報系の 学問分野を専門とする 教員による演習指導科 目であり、情報の視点 から事業構想学を捉え る点に違いがある。	【数理造形デザイン特別演習】 ファブラボと呼ばれるデジタルファブリ ケーション機材を備えた市民工房が世界各地 に設立され国際的なネットワークを通じて ローカルなものづくりの知識や経験が共有さ れる環境が整いつつある。これまでものづく りに参加できなかった個人でさえ、この仕組 みの上で事業を開始することが現実的な選択 肢になりつつある。こうした背景において ローカルな素材や技術を用いたものづくり を、世界に向けて発信するための基礎的な知 識や実務上の事情を理解することを目的とす る。	教授 土岐謙次

領 域	授業科目・概要	担当教員
産業・事業システム	事業構想学特別研究 【科目の一般概要】 事業構想学研究科における研究指導においては、今後における事業 構想学の発展や実学・実践の学問展開を目指す観点から、博士論文作 成のための研究指導を行う目的で事業構想学特別研究を設ける。具体 的には、指導教員との討論、議論等を通じて、研究テーマの選定、研 究の進め方、研究計画、研究評価、学会等への発表計画、論文の構成 等の綿密な指導により研究能力を高めるが、体系的かつ効果的な問題 解決の実践及びその方法の習得、その課程の中から新原理の探求を目 指す。	研究指導教員

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
地域・社会システム	地域・社会システム 特別演習 I a・I b (事業計画系) 【科目の一般概要】 地域・社会システム 特別演習 I a・I b (事業計画系) (以下「特別演習 I a・I b」という。) は、博士(後期3年の課程)の中心となる事業構想学特別研究を補助する目的で開設する。関連論文の輪読、先行研究のサーベイ、現実問題の理解と解決方法の実践・理解などにより、専門的知識を一層高めるとともに、研究の方法等を深める。先行研究に基づいた研究プロトコルを提出することを本科目の最終課題とする。 また、特別演習 I a・I bを行うに当たって、有益であると認められる場合は、指導教員の指導の下に、企業等他の研究機関・施設とコラボレーションしつつ(企業インターンシップを含む。)指導する。特別演習 I a・I bは、事業計画系の学問分野を専門とする教員による演習指導科目であり、事業計画の視点から事業構想学を捉える。	【コミュニティビジネス特別演習】 本演習は、持続可能な社会の構築に向けた政策課題や経済問題等を分析し、そのソリューションとしての「持続可能な地域創造手法」を学ぶものである。具体的には、①現代の地域社会の問題を研究論文や行政報告書等から分析を行うとともに、②行政、企業、住民等に対するヒアリング調査やワークショップ等を行い、③地域資源を活かした「地域市民事業(コミュニティビジネス)」の創造プロセスを習得していくものである。コミュニティビジネスは、地域の課題や特性を踏まえながら、コミュニティ主体の地域再生事業を創造するビジネスモデルであり、本演習は、そのための基本条件を実践的な視点から習得していくものである。	教授 風見正三
		【医療福祉システム特別演習】 ①医療福祉分野の制度を理解し、その諸課題について総括する。 ②診療報酬体系のあり方とそれが病院経営に与える影響について実証的に分析する。 ③医療福祉の情報システムについてのあり方を検討する。 ④保険薬局やその他の医療福祉関連機関との連携について学習する。 ⑤認知症に関する知識を学習する。 ⑥特に認知症の行動的心理学的症候 (Behavioral and Psychological Signs and Symptoms of Dementia: BPSD) の特徴と対処方法を考察する。それによって、医療が福祉とどのように連携を取るべきか、どのように機能分化や機能統合を進めるべきか学習する。	教授 糟谷昌志
		【税法・社会関連会計特別演習】 事業構想における租税法分野の役割は、新しい事業価値創造の実現可能性を担保するために、その適法性や公共性の判断や税額算定から、意思決定情報を提供することにある。そのため、法律の解釈論をベースとして、理論構築や算定を展開させていく。 具体的には、 ①事業価値創造と租税法解釈 ②事業価値創造と租税法の制約要件の検討 ③事業価値創造と租税法上の課題の考察 ④税額算定と代替え案の比較からの有利選択 この4つを軸として、演習を進める。	教授 内田直仁

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
地域・社会システム	地域・社会システム 特別演習Ⅰa・Ⅰb (事業計画系) 【科目の一般概要】 地域・社会システム 特別演習Ⅰa・Ⅰb(事業計画系)(以下「特別演習Ⅰa・Ⅰb」という。)は、博士(後期3年の課程)の中心となる事業構想学特別研究を補助する目的で開設する。関連論文の輪読、先行研究のサーベイ、現実問題の理解と解決方法の実践・理解などにより、専門的知識を一層高めるとともに、研究の方法等を深める。先行研究に基づいた研究プロトコルを提出することを本科目の最終課題とする。 また、特別演習Ⅰa・Ⅰbを行うに当たって、有益であると認められる場合は、指導教員の指導の下に、企業等他の研究機関・施設とコラボレーションしつつ(企業インターンシップを含む。)指導する。特別演習Ⅰa・Ⅰbは、事業計画系の学問分野を専門とする教員による演習指導科目であり、事業計画の視点から事業構想学を捉える。	【社会システム特別演習】 地域の産業活性化や生活環境維持・改善のためには、社会基盤施設の整備とともに法制度や補助制度など、ハードとソフトを併せた社会システムとしての検討が必要となる。本演習では、特にまちづくりと交通が産業活動や生活環境に与える影響に焦点を当て、まず、これまでのシステム変更の影響について文献調査や事例調査により学ぶ。次に、計画プロセスにおいて必要となる統計分析、将来予測、最適化技法、評価手法などの理論について学ぶ。さらに、それらの手法を個別課題に適用することによって計画プロセスを学ぶとともに、その手法の特性や適用限界などについて理解を深める。	教授 徳永幸之
		【コミュニティシステム特別演習】 コミュニティに関わる理論的な論点(市民社会、討議デモクラシー、ソーシャル・キャピタルなど)に関する、体系的な整理と検討を通して、それぞれの研究の主眼を明確化し、学問領域の中での位置づけを明確化する。さらにこうした検討作業を通して、仮説構築を行い、この仮説をどのような方法に基づいて検証を行うことが可能であるか方法論の検討を行う。これらを踏まえて、それぞれの研究課題の論文化に向けての具体的な工程を作成する。	教授 藤澤由和

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
地域・社会システム	地域・社会システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb (デザイン情報系) 【科目の一般概要】 地域・社会システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb(デザイン情報系)は、特別演習Ⅰa・Ⅰbと履修の目的、目標及び指導方法等は同じであるが、デザイン情報系の学問分野を専門とする教員による演習指導科目であり、情報の視点から事業構想学を捉える点に違いがある。	【認知情報学特別演習】 システムの一要素としての人間の諸特性について、身体・行動・認知及びそれらを支えるメカニズムの観点から、幅広い研究リソースに対して最新の知見を調査・取材し議論を行う。特に、認知科学、脳科学、心理学に関連した学術論文の輪講、議論が中心的な作業となる。心理学の分野としては基礎心理学が中心となるが、必要に応じて社会心理学、発達心理学、臨床心理学などの知見にも積極的に当たる。また、人間の諸特性を実験的に検討するための方法論についても実習を交えて学んでいく。具体的には、社会調査法、多変量解析を含むデータマイニング及び統計手法、心理物理学的測定法、生体電気測定法、脳イメージング等の手法である。	教授 茅原拓朗
		【地域・社会分散システム特別演習】 日進月歩の勢いで進展している高度情報化社会において、情報通信技術を基盤とする新たな技術と地域・社会に対する高度な情報サービスのあり方を探求する。 はじめに、地域・社会システムの観点から、知能システムに関わる理論や技術、そして最近の動向について、学術論文の輪講、討論などにより、知能システム工学／科学の体系的な学問体系を習得する。 次に各自の事業構想に基づき、具体的な知能エージェントを設計し、Java等のオブジェクト指向プログラミング言語を用いて知能エージェントを実装する。本演習では、エージェントに知能をどのように具体的に持たせ、地域・社会システムを実現するかについて実験演習を行う。	教授 富樫 敦
		【地域ランドスケープ政策特別演習】 ①政策決定における法制度システムの機能、役割、その実施方策について、具体的事例を挙げながら検証を進める。 ②地域ランドスケープデザインの対象となる、景観整備、歴史・文化遺産を活用したまちづくり、緑地保全、生態系保全などの個別のテーマにおける政策システムの制度論について、実例を用いながら、それぞれ考察を加えるとともに、政策決定のプロセスを探る。 ③今後の地域創生にランドスケープ資産を活用することができるような方法論を検討する。	教授 舟引敏明

《授業科目の概要》

領 域	授業科目・概要	講義等の内容	担当教員
地域・社会システム	地域・社会システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb (デザイン情報系) 【科目の一般概要】 地域・社会システム 特別演習Ⅱa・Ⅱb (デ ザイン情報系) は、特 別演習Ⅰa・Ⅰbと履修 の目的、目標及び指導 方法等は同じである が、デザイン情報系の 学問分野を専門とする 教員による演習指導科 目であり、情報の視点 から事業構想学を捉え る点に違いがある。	【社会基盤情報システム特別演習】 道路や鉄道等の交通社会基盤に関連する情 報システムに注目し、計画・設計、施工、維 持管理・運用等の交通基盤施設のライフサイ クルにおける各フェーズで利用される情報シ ステムを取り上げ、国内外の最新の研究成果 を基に輪講や討議を行い、当該分野における 理論・最新技術について体系的に理解すると ともに、現状の技術的問題点を明らかにす る。さらに交通社会基盤と情報システムとの 融合により創出される新しいサービスモデル とその実現の可能性について討議を行い、交 通社会基盤の情報化の将来について考察す る。	教授 蒔苗耕司
		【地域環境システム特別演習】 安全で快適な生活環境を保障し、かつ良好 な都市環境を保全するため、社会資本整備が 社会や自然に及ぼす影響・責任について国内 外の最新の研究成果を基に輪講や討議を行 う。さらに、地域資源を保全しながら持続可 能な地域社会を築くためのマネジメントの考 え方や手法について理解するとともに、都市 や地域における人間活動がもたらす地域環境 へのインパクトについて各種の統計情報や地 域環境情報を用いて分析・評価し、地域の実 情に即した社会のあり方について考察する。	准教授 石内鉄平

領 域	授業科目・概要	担当教員
地域・社会システム	事業構想学特別研究 【科目の一般概要】 事業構想学研究科における研究指導においては、今後における事業 構想学の発展や実学・実践の学問展開を目指す観点から、博士論文作 成のための研究指導を行う目的で事業構想学特別研究を設ける。具 体的には、指導教員との討論、議論等を通じて、研究テーマの選定、研 究の進め方、研究計画、研究評価、学会等への発表計画、論文の構成 等の綿密な指導により研究能力を高めるが、体系的かつ効果的な問題 解決の実践及びその方法の習得、その課程の中から新原理の探求を目 指す。	研究指導教員

《研究科教員連絡先一覧》

領 域	職・氏名	連絡先
産業・事業システム	教授 石田 祐	Tel 022-377-8247 e-mail ishiday@myu.ac.jp
	教授 櫻木 晃裕	Tel 022-377-8372 E-mail sakuragi@myu.ac.jp
	教授 須栗 裕樹	Tel 022-377-8352 E-mail suguri@myu.ac.jp
	教授 土岐 謙次	Tel 022-377-8332 E-mail toki@myu.ac.jp
地域・社会システム	教授 風見 正三	Tel 022-377-8357 E-mail kazami@myu.ac.jp
	教授 糟谷 昌志	Tel 022-377-8328 E-mail kasuya@myu.ac.jp
	教授 茅原 拓朗	Tel 022-377-8369 E-mail kayahara@myu.ac.jp
	教授 郷古 雅春	Tel 022-377-8373 e-mail goukomas@myu.ac.jp
	教授 徳永 幸之	Tel 022-377-8349 E-mail y_toku@myu.ac.jp
	教授 藤澤 由和	Tel 022-377-8355 E-mail fujisaway@myu.ac.jp
	教授 蒔苗 耕司	Tel 022-377-8368 E-mail makanae@myu.ac.jp
	准教授 千葉 克己	Tel 022-377-8278 e-mail chibak@myu.ac.jp

入学者選抜手数料支払方法のご案内

下記のコンビニ端末にてお支払いください

1 お申込み

セブン-イレブン

マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「**学び・教育**」よりお申込みください。



学び・教育



入学検定料等支払



LAWSON
Loppi

MINISTOP
Loppi

<http://www.lawson.co.jp>

<http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。



TOP画面の「**各種サービスメニュー**」よりお申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン



学び・教育・各種検定試験



大学・短大、専門、
小・中・高校等お支払い



お申込みの大学名

をタッチし、申込情報を入力して「**払込票**」/**申込券**」を発券ください。

*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

(注意) 本学への出願は、出願期間最終日の消印有効となります。コンビニ端末での手続き後、お近くの郵便局での手続きが必要となりますので、出願期間最終日には、お近くの郵便局で当日の消印処理が可能であるか十分に確認のうえ、この後の手続きにお進みください。(※出願期間最終日の受付締切時間は22時となりますのでご注意ください。)

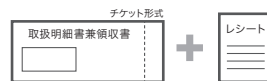
① コンビニのレジでお支払いください。

端末より「**払込票**」(マルチコピー機)または「**申込券**」(Loppi)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**



② お支払い後、チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「**取扱明細書**」(マルチコピー機)または「**取扱明細書兼領収書**」(Loppi)。



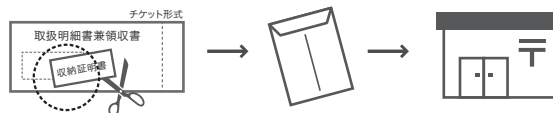
*お支払い済みの入学者選抜手数料はコンビニでは返金できません。
*お支払期限内に入学者選抜手数料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学者選抜手数料の他に、払込手数料が別途かかります。
*払込期間初日は10時から手続き可能となります。

払込手数料(税込) 495円

3 出願

「**取扱明細書**」または「**取扱明細書兼領収書**」の「**収納証明書**」部分を切り取り、募集要項の指示に従って入学願書の裏面に貼り、郵送してください。

貼付する場合、「感熱・感圧紙などを変色させる場合があります」と記載のある糊は使用しないでください。「収納証明書」が黒く変色する恐れがあります。



【試験会場案内】 事業構想学研究科

宮城大学 ^{た い わ}大和 キャンパス

宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

電話 022-377-8359

【JR仙台駅からの交通案内】

J R仙台駅から公共交通機関を利用する場合は、(1)仙台駅発着路線バス又は(2)仙台市地下鉄南北線を利用する方法があります。

(1) 仙台駅発着路線バス（宮城交通バス）を利用する方法

ＪＲ仙台駅西口のバスフル２番から、路線バス（宮城交通）「宮城大学・仙台保健福祉専門学校」行きに乗車してください。県庁市役所・泉アウトレットを経由する路線と上杉通・泉アウトレットを経由する路線のどちらも乗車可能です。宮城学院、泉アウトレットを経由し、所要時間約５０分で「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」バス停留所に到着します。（片道料金 700 円：令和３年６月１日現在）

(2) 仙台市地下鉄を利用する方法

- ① J R 仙台駅からは地下1階の自由通路を通り、隣接する仙台市地下鉄仙台駅に向かい、地下鉄南北線「泉中央」行きに乗車してください。所要時間約15分で泉中央駅に到着します。（片道料金310円：令和3年6月1日現在）
- ② 仙台市地下鉄泉中央駅で地下鉄を下車し、路線バス（宮城交通）に乗り継ぐか、又は、タクシーを利用してください。

ア 路線バス（宮城交通）を利用する場合は、東1出口からバスプール3番に向かい、「泉パークタウン」行き（宮城大学経由）に乗車してください。宮城大学を経由しない路線もありますのでご注意ください。桂・高森地区経由で所要時間約30分、寺岡・紫山地区・泉アウトレット地区経由で所要時間約35分です。「宮城大学・仙台保健福祉専門学校前」バス停留所で降車してください。（片道料金420円：令和3年6月1日現在）

イ タクシーを利用する場合、泉中央駅のタクシープールは駅舎2階北側にあります。

宮城大学にはキャンパスが2つあるほか、仙台市には「みやぎ台」という地区がありますので、行き先を告げる際は、「泉パークタウン隣の宮城大学」とはっきり伝えてください。

泉中央駅から所要時間約20分で、料金は片道2,000円程度です。

